

令和5年9月29日

学校だより



10月号

横浜市立美しが丘東小学校
学校長 藤本 光子

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/>

自尊感情を育てる

校長 藤本 光子

ようやく涼しい風が校庭に吹くようになりました。熱中症の心配なく校庭で遊べる日が増え、子どもたちも満足そうです。

さて、4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が届きました。全国の小学6年生（及び中学3年生）を対象とした調査です。その中で、昨年度から私が特に気になっている回答結果がありました。それは「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問です。半分ほどの児童が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答し、コロナ禍で行事があまりなかった昨年度より増えていました。来年度はさらに増えるのではないかと期待しています。

今年の夏は地域のお祭りが開催され、私も参加する機会をいただきました。そこで、子どもたちはもちろん、地域の方や保護者の方とお話をしたり、出店を回って焼き鳥やラムネを手にししたりと、たっぷりお祭りの醍醐味を味わうことができました。そうするうちに、「私はこの地域のお祭りに参加していいんだ、ここにいていいんだ。」という、どこか安心するような感情が湧いてきました。子どもたちの楽しみ方もそれぞれでしたが、特別なことをしなくても、参加すること自体、意味のあることなのだと感じました。子どもたちにこのようなお楽しみの場を提供してくださった地域の方々に感謝いたします。

自尊感情 (Self Esteem) という言葉をご存知でしょうか。教育では「自分を認める感情」と訳されることが多いです。この自尊感情は、他者と関わり合いながら、ゆっくりと時間をかけて育つものです。ただし、褒められる、という他者からの評価だけでは育たず、他者評価のみで急速に育ったとしても、風船のように時間が経つとしぼんでしまうようです。

では、どうすれば確かな自尊感情が育つのでしょうか。大切なことは、他者と感情を共有することです。例えば、家族で一緒にご飯を食べる、という行為です。特別に会話をしなければならないというのではなく、食材を味わう、テレビを見て笑う、などでも十分感情を共有することができます。そうすることで、料理をおいしいと思う自分やテレビを見ておもしろいと感じる自分が肯定され、自分のままでいいんだ、という思いが積み重なり、少しずつ自尊感情が育つのだそうです。

そう考えると、学校は仲間と励み、悩み、様々な感情を共有できるので、自尊感情を育てることができる場と言えます。教師も「すごいね」という評価の言葉だけに頼らず、「楽しいね」「大変だったね」というような、感情を共有できるような言葉もたくさんかけていきたいです。

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いには、94.8%の子が肯定的回答でした。この結果が100%にならなかったことを真摯に受け止めています。子どものがんばりにも失敗にも寄り添うことで自分を認められるような感情を育み、どの子も「ここにいていいんだ」と感じられる学校を目指していきたいと思います。